

## III 調査結果のあらまし

### 第 50 回市政に関する世論調査の結果

#### 7. 宇都宮市に対する感じ方について

##### (1) 宇都宮市の好き・嫌い

「好き」と「どちらかといえば好き」を合わせた【好き（計）】は約 9 割であった。

##### (2) 好きな理由

宇都宮市の好きだと思ふところについては、「自然災害の少なさ」が 5 割強で最も高く、次いで「買い物など日常生活の便利さ」、「自然環境の豊かさ」、「慣れ親しんだところ」と続いている。

##### (3) 嫌いな理由

宇都宮市の嫌いだと思ふところについては、「交通マナーの悪さ」が 3 割強で最も高く、次いで「街に活気がないところ」、「交通渋滞の多さ」、「電車やバスなどの交通機関の整備が遅れているところ」と続いている。

#### 8. 広報媒体の活用状況について

##### (1) 「広報うつのみや」の入手方法

「広報うつのみや」の入手方法については、「新聞折込で自宅に届いている」が 7 割弱で最も高く、「手に入れていない」は 2 割弱であった。

##### (1-1) 「広報うつのみや」で読んでいる記事

「広報うつのみや」で主に読んでいる記事については、「健康・福祉・国保・年金」が 4 割強で最も高く、次いで「暮らし・住まい・環境・安全・交通」、「各施設の催し物（宇都宮美術館、市文化会館、ろまんちっく村、図書館など）」、「特集（市の重点事業）」、「情報カレンダー（市のイベントカレンダー）」、「文化・教養・スポーツ」と続いている。

##### (1-2) アプリを利用した動画視聴状況

アプリをダウンロードし、AR（拡張現実）で動画視聴をしたことがあるかについては、「利用したことはない」が 9 割強であった。

##### (2) 市政情報の各広報媒体の視聴状況

「広報うつのみや」以外の 12 種類の広報媒体については、「よく見る（聞く）」と「ときどき見る（聞く）」を合わせた【見る（聞く）ことがある（計）】は「インターネット（宇都宮市ホームページ）」が 5 割弱で最も高く、次いで「暮らしの便利帳」であった。

##### (3) ホームページを見るための主な手段

ホームページを見るための主な手段については、「パソコン」が 5 割弱で最も高く、次いで「スマートフォン」であった。

### (3-1) ホームページで知りたい情報はどこから探すか

ホームページで知りたい情報をトップ画面のどこから探すかについては、「キーワード検索」が約5割で最も高く、次いで「大分類（暮らし・教育文化・観光イベント・事業者・市政）」が4割半ばであった。

### (3-2) ホームページで知りたい情報は探しやすいか

ホームページで知りたい情報は探しやすいかについては、「探しやすい」と「どちらかといえば探しやすい」を合わせた【探しやすい（計）】は6割弱であった。

### (3-3) 広報紙やホームページで充実してほしい情報や機能

- 情報（子育て、行政、地域、各種イベント、若者が興味を持てるもの 等）の充実
- 見やすさ、分かりやすさ（検索画面、写真・イラスト・マップ等の画像、分かりやすい言葉） 等

## 9. 多文化共生の認知度と施策への関心について

### (1) 「多文化共生」の認知度

「多文化共生」という言葉の認知度については、「言葉も意味も知っている」が3割半ばで最も高く、「聞いたことがあるが、意味は知らない」と「言葉も意味も知らない」はいずれも3割強であった。

### (2) 外国人住民と接する機会

外国人住民と接する機会については、「機会がない」が5割強であった。

### (3) 参加したい多文化共生事業

参加したい多文化共生事業については、「参加したくない」が3割半ばで最も高く、次いで「異文化料理教室」が2割半ばであった。

## 10. 窓口サービスについて

### (1) 市役所の窓口サービスについて、どのように感じているか

市役所の窓口サービスについての満足度は、「満足している」と「どちらかという満足している」を合わせた【満足している（計）】が約7割であった。

### (2) 窓口サービスの満足点

窓口サービスの満足点については、「職員の対応」が7割強で最も高く、次いで「待合スペースなどの窓口の環境」が3割弱であった。

### (3) 窓口サービスの不満点

窓口サービスの不満点については、「職員の対応」が6割強で最も高く、次いで「窓口サービスの利便性」が3割強であった。

## 1 1. 住宅用火災警報器について

### (1) 「住宅用火災警報器」設置義務の認知度

全ての住宅等に「住宅用火災警報器」の設置が義務づけられたことを知っているかについては、「知っている」が8割強で最も高く、「知らない」は1割半ばであった。

### (2) 「住宅用火災警報器または自動火災報知設備」の設置状況

現在、自宅に「住宅用火災警報器または自動火災報知設備」が設置されているかについては、「住宅用火災警報器」または「自動火災報知設備」が設置されているが合わせて6割半ばであった。一方、「どちらも設置されていない」が約3割となっている。

#### (2-1) 「住宅用火災警報器等」を設置していない理由

「住宅用火災警報器等」を設置していない理由については、「どのくらい効果があるのかわからない」が約4割で「住宅用火災警報器の購入場所がわからない」が2割半ばであった。

#### (2-2) 「住宅用火災警報器等」の点検等実施状況

「住宅用火災警報器等」の点検等を実施しているかについては、「していない」が5割弱で最も高く、次いで「ひもを引くまたはボタンを押すなどして、定期的に作動点検をしている」が約3割、「布で拭くなどにより、定期的に清掃している」が2割強であった。

## 1 2. 男女共同参画について

### (1) 「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」の認知度

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の認知度については、「言葉は聞いたことはあるが、内容までは知らない」が約4割で、次いで「言葉も内容も知らない」、「言葉も内容も知っている」と続いている。

### (2) 生活の中で何を優先するか

生活の中で何を優先するかについての【理想】では『仕事』と『家庭生活』と『個人・地域の生活』のすべてを優先」が2割半ば、【現実】では『仕事』を優先」が3割弱で最も高かった。

### (3) 配偶者等からの暴力を受けた経験

夫や妻、恋人から暴力を受けたことがあるかについては、「身体に対する暴力を受けた」、「経済的な暴力を受けた」、「社会的な暴力を受けた」、「性的な暴力を受けた」は「まったくない」が9割を超えた。

「精神的な嫌がらせや恐怖を感じるような脅迫を受けた」は他の「暴力を受けた」と比較して「何度もあった」と「1、2度あった」を合わせた【経験あり（計）】が1割弱で最も高かった。

#### (3-1) 暴力を受けたときに誰かに相談したか

暴力を受けたときに誰かに相談したかについては、「相談しなかった」が約6割であった。

### 1 3. 障がい福祉施策について

#### (1) 障がいのある人に対して、障がいを理由とする差別や偏見があると思うか

障がいのある人に対して、障がいを理由とする差別や偏見があると思うかについては、「少しはあると思う」が約5割で最も高かった。

#### (2) 「共生社会」の認知度

「共生社会」という考え方の認知度については、「知っている」が4割半ばであった。

#### (3) 共生社会を実現するために必要と思われる取り組み

共生社会を実現するために必要と思われる取り組みについては、「障がいのある人への就労の支援」が約6割で、次いで「障がいのある子どもの支援体制や教育の充実」、「障がいのある人に配慮した建物や交通機関の整備」と続いている。

### 1 4. 「もったいない運動」について

#### (1) 「もったいない運動」の認知度

「もったいない運動」の認知度については、「知らない」が5割弱で最も高く、次いで「内容を知っており、実践している」が3割強、「内容を知っているが、実践はしていない」が2割弱と続いている。

#### (2) 「もったいない運動」で実践していること

「もったいない運動」で実践していることについては、「マイバッグの利用」が5割半ばで最も高く、次いで「食べ残しをしない」と「詰め替え製品の利用」が5割強、「節電行動（電気をこまめに消す、エレベーターを使わず階段を使うなどの行動）」が約5割と続いている。

#### (3) 「もったいない残しま10！」運動の認知度

「もったいない残しま10！」運動の認知度については、「知らない」が約7割で最も高かった。

### 1 5. 「生物多様性」について

#### (1) 「生物多様性」の認知度

生物多様性という言葉を知っているかについては、「聞いたことはあるが意味は知らない」が4割弱で最も高く、次いで「まったく知らない」が3割半ばであった。

#### (2) 外来種が及ぼす影響の認知度

外来種が及ぼす影響を知っているかについては、「知っている」が6割半ばで最も高く、次いで「聞いたことはあるが具体的な影響はわからない」が約3割であった。

#### (3) 生物多様性を保全するために必要と思われる取り組み

生物多様性を保全するために必要と思われる取り組みについては、「外来種の周知啓発や駆除等の対策」が8割弱で最も高く、次いで「希少種の周知啓発・保全」が4割強、「自然保護活動への支援」が約4割と続いている。

## 16. ごみステーションへのごみの排出状況について

### (1) 不燃ごみの排出状況

不燃ごみの排出状況については、「ときどき」が約5割で最も高く、次いで「ほとんど出さない」が2割半ば、「月2回程度」が1割半ばであった。

### (2) 資源物の収集についてどのように考えていること

資源物の収集について考えていることは、「今まで通りまとめて週1回でよい」が約8割であった。

## 17. うつのみや産の農畜産物について

### (1) 「うつのみや産」の農畜産物の選択購入

「うつのみや産」の農畜産物を積極的に購入することについては、「そう思う」が6割弱で最も高く、次いで「あまりそう思わない」が約2割であった。

### (2) 宇都宮の農業を大切にしたいか

宇都宮の農業を大切にしたいかについては、「そう思う」が約6割で最も高く、次いで「非常にそう思う」が約3割であった。

## 18. 中央卸売市場の一般開放について

### (1) 「中央卸売市場の一般開放」の認知度・利用頻度

中央卸売市場の一般開放の認知度と、来場回数については、「知っているが行ったことがない」が4割弱で最も高く、次いで「知らなかったが行ってみたい」が3割半ばであった。

### (2) 市場に来場してどのように感じたか

中央卸売市場の一般開放で、「ほぼ毎月」「7～10回」「1～6回」来場したと答えた方に、市場に来場してどのように感じたか聞いたところ、「価格が安い」が3割半ばで最も高く、次いで「品質・鮮度が良い」が2割強であった。

### (3) 今後必要となるもの

今後必要となるものについては、「開催日時の変更（回数や時間の増加含む）」が5割弱で最も高く、次いで「休憩所」が3割強であった。

### (4) 来場されなかった理由

中央卸売市場の一般開放の認知で「知らなかったが行ってみたい」、「知っているが行ったことがない」「知らなかったし、行くつもりもない」と答えた方の行かない理由については、「近所の小売店・スーパーで十分」が3割半ばで最も高く、次いで「何が販売されているか分からない」が約3割であった。

### (5) 一般開放に望むこと

中央卸売市場の一般開放の認知で「知らなかったが行ってみたい」、「知っているが行ったことがない」「知らなかったし、行くつもりもない」と答えた方の一般開放に望むものについては、「価格が安い」が6割半ばで最も高く、次いで「品質・鮮度が良い」が約6割であった。

---

## 19. 食料品・生活用品の買い物について

### (1) 食料品・生活用品の買い物の際に困っていること

食料品・生活用品の買い物の際に困っていることについては、「特になし」が5割強であった。一方、「徒歩圏に行きたいお店がない」が3割弱、「公共交通機関の駅・バス停まで遠い」が1割半ばであった。

### (2) 買い物環境を改善するために必要なこと

買い物環境を改善するために必要なことについては、「特になし」が5割弱で最も高く、次いで「公共交通機関の充実」が2割強、「近隣へのスーパーなどの出店」が1割半ばであった。

### (3) 家の近くにあったらよいと思うもの

家の近くにあったらよいと思うものについては、「食品スーパー」が約3割で最も高く、次いで「特になし」「コンビニエンスストア」と続いている。

## 20. 宇都宮市の景観について

### (1) 宇都宮市の景観は10年前と比べてどうなったと感じるか

宇都宮市の景観は10年前と比べてどうなったと感じるかについては、「非常に良くなった」と「どちらかというとも良くなった」を合わせた【良くなった(計)】が5割弱であった。一方、「変わらない」も4割弱であった。

### (2) 「宇都宮らしい景観」とは何か

「宇都宮らしい景観」とは何かについては、「都市の中に歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観」が4割弱で最も高く、次いで「鬼怒川など郊外の豊かな自然を感じる河川」が2割半ばであった。

### (3) 良好な都市景観の形成に必要なこと

良好な都市景観の形成に必要なことについては、「道路上の電柱・電線類の地中化」が約5割で最も高く、次いで「周辺景観に調和していない屋外広告物(看板)の撤去や規制」が2割強、「沿道や都心部の緑化の推進」が約2割であった。